

新潟市総合計画(案)について

【新潟市総合計画】

新潟市が目指す姿(都市像)の実現に向けたまちづくりの方向性を示す、本市における最上位計画。計画期間は令和 5 年度から令和 12 年度(8年間)

【構成(素案)】

基本構想

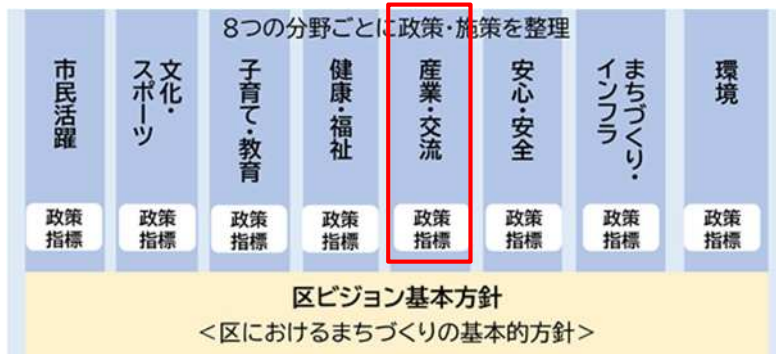
- まちづくりの理念(考え方・方向性)
みんなで新潟市の強みを活かし、人口減少時代に躍進する、『活力あふれるまちづくり』、『持続可能なまちづくり』を進めます
- 目指す都市像(8年後2030年の姿)
『田園の恵みを感じながら心豊かに暮らせる日本海拠点都市』

《課題意識・時代潮流》

- 急速に進行する人口減少・少子高齢化への対応
- 脱炭素の実現やSDGs(持続可能な開発目標)の達成など世界的な課題への対応。
- 新型コロナウイルス感染症による社会の変化への対応
- ・・・など

基本計画

基本構想を実現するための基本的な計画で、市政全般に係る政策・施策の基本的な方向を総合的かつ体系的に定めるもの



- 政策・施策を推進する5つの視点
 - ①経済・社会・環境の三側面に配慮する
 - ②新潟の将来を担う世代の思いを大切にする
 - ③新潟への誇りと愛着を育む
 - ④パートナーシップにより目標を達成する
 - ⑤デジタル技術・データを活用する

総合計画と整合

分野別計画

区ビジョン
まちづくり
計画

実施計画

基本計画で示した施策を実現するための具体的な取組

※農業構想、農業地域振興整備計画、地域防災計画、環境基本計画 等

新潟市総合計画 素案

※令和4年6月20日に公表され7月19日までパブリックコメントを募集していた素案の抜粋です。
総合計画審議会の審議により変更等が生じます。

分野5 産業・交流

政策9
農林水産

都市と田園の調和を活かした持続可能な農林水産業の実現



基本的方向

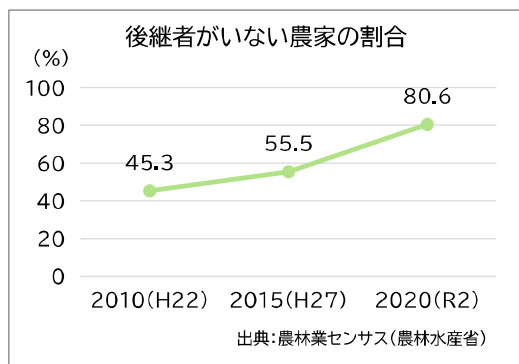
良好な営農条件を備えた農業生産基盤の整備・保全と生産体制の強化、販売力の向上を通じて、「儲かる農業」を実現し、意欲ある担い手等の確保・育成により、持続可能な農林水産業を目指します。
都市と田園が調和する新潟市の強みである豊富な「食」と「農」の地域資源を最大限活用して、農林水産業者の発意と工夫に、市民との協働や他分野との力の組み合わせを通じて、コミュニティの活力の創出を図ります。また、食、花に市民が触れ合う機会を拡大し、地域への誇りと愛着を育みます。

新潟市の現状/将来を見据えた課題

揺らぐ農業構造

- 令和2(2020)年の新潟市の農業産出額は、570億円で全国5位、分野別では米が327億円であり、全国1位の大農業都市です。日本最大の水田面積を持つ米どころである一方、米の作付け割合が高いがゆえに、米価や需要の変動の影響を受けやすい農業構造となっています。
- 今後、農業就業者の減少と高齢化がさらに進展するものと見込まれています。後継者がいない農家も急増するなど、農業の担い手確保は楽観できない状況にあります。
- また、「儲かる農業」の土台となる農地の整備率は近年、微増にとどまっており、令和2(2020)年の新潟市の農地のほ場整備率は51.9%で、県の64.1%及び全国の67.0%を下回っています。
- こうした状況が続くと、農地や農業技術の次世代へのスムーズな承継がなされず、農業生産力の減少のみならず、地域コミュニティの維持も困難になる恐れがあります。

○心豊かな暮らしを支える食と農を守るためには、農業生産基盤の整備・保全、スマート農業の導入による効率化、意欲ある担い手の確保、園芸導入による複合営農の推進などの取組を進めることで、持続可能な農業を実現する必要があります。



人材の育成・確保と良好な農業生産基盤の整備・確保

- 新潟市が今後も大農業都市として「儲かる農業」を実現するためには、効率的かつ安定的な経営を目指す担い手の確保と農地の集積・集約化、そしてそのための農業生産基盤である良好な営農条件を備えた農地の整備、農業水利施設の保全管理が重要です。
- 新規就農者の約半数が農業法人等に就業するなど就農機会が拡大しています。就農機会の拡大に伴い、就農して定着に向けた技術・知識の習得が重要です。
- 担い手は、農業生産のみならず地域コミュニティの維持においても重要な役割を果たしています。新規就農者をはじめとする農業や地域を支える多様な人材の確保が重要です。

スマート農業の加速化

- 平成26(2014)年に「大規模農業の改革拠点」として、国家戦略特別区域に指定されて以降、デジタル技術の活用による農業の生産性向上プロジェクトが数多く取り組まれ、その成果は広く農業現場で活用されています。
- 「儲かる農業」の実現には、デジタル技術を活用して、営農の省力化や効率化を進めることが重要です。

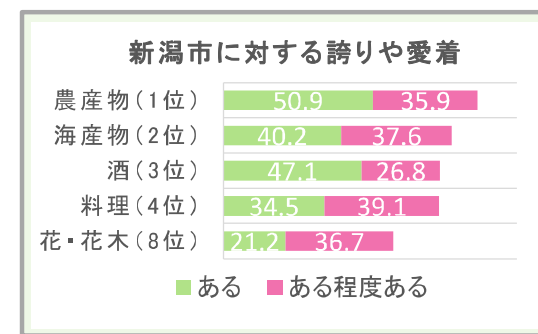
持続可能な農業生産を実現

- 安心・安全な農産物を求める消費者のニーズは高まっています。また、SDGsや持続可能な食料システムの構築に向けた国内外の動きが加速しており、環境にやさしい農業や資源循環型農業の取組が求められています。
- 家庭での調理機会の減少など人々のライフスタイルの変化や、海外マーケットの拡大などによる需要の動きに対応していくことが重要になります。

食と農のつながりの深化

- 新潟市の特色を活かし、地域の魅力を学ぶアグリ・スタディ・プログラム、食品関連産業の集積など食と農に関連した多くの取組がなされています。

○多くの市民が地場産の農産物や水産物、食文化等に対して誇りと愛着を抱いています。こうした豊富な地域資源の魅力を広く発信し、ブランド力の向上につなげるとともに、他分野にも活かしていくことが重要です。



林業・水産業の動向

- 新潟市の林業は、森林所有者の高齢化や林業従事者の減少などから、適切な整備がなされない森林の増加が課題となっています。
- 水産業は、漁業者の高齢化や漁業従事者数の減少が進んでおり、持続可能な水産業の実現のためには意欲ある担い手の確保を図ることが重要です。

地球規模の視野で考え、地域視点で行動

- 我が国の食料自給率は、長期的には低下傾向で推移しており、令和2(2020)年度はカロリーベースで37%、生産額ベースで67%となっています。
- 世界の人口増加や経済発展に伴う食料需要の増大、気候変動、感染症や国際情勢の変化などの影響により、我が国の食料の安定供給に関する不確実性が高まっています。
- 地球規模の視野で考えながら、新潟市の持つ食と農を活かしたまちづくりを考える必要があります。

施策1 売れる米づくりと園芸産地づくりの推進

① 「儲かる農業」に向けた農業生産基盤の整備・保全

- 良好な営農条件を備えた農地を確保し、意欲ある担い手が有効利用し、さらに次世代へ承継するため、農地の大区画化や水田の汎用化等を進めます。
- 新潟市の農業を支える基幹的な農業水利施設の適切な更新・保全管理による農業生産基盤の強靱化を進めます。
- 意欲ある担い手への農地の集積・集約化を効果的に推進し、生産性の向上を図るとともに、スケールメリットを活かした農業経営が展開できるよう取組を進めます。

無人トラクタの実証実験



② 生産性向上と持続性の両立に向けたスマート農業技術の導入促進

- 国家戦略特別区域制度を活かし、スマート農業やデジタル技術の導入を支援することで、生産性・収益性の向上を図ります。
- SDGsの達成に向け、脱炭素化・環境負荷低減に対する農業現場のニーズに即しながら、さまざまな課題に対しデジタル技術を活用します。

関連する施策

- 地域経済の活性化に資する新たなビジネスの創出支援 … P150
- 脱炭素社会の創造 … P195

③ 意欲ある担い手等の確保・育成

- 新規就農者の技術及び知識の習得や意欲ある担い手が営農を継続できる環境を整備するなど、多様な担い手の確保・育成を進めます。
- スマート農業技術などを活用し経営拡大を進める担い手の育成に取り組むほか、農業を支える多様な人材を確保するため、デジタル技術の活用を進めます。

④ 新たな需要に応える農産物の生産体制の強化

- 需要が拡大する野菜・果樹に対応するため、生産技術の課題解決や付加価値の高い農産物の生産に対する支援を行います。
- 消費者や食品関連産業の需要に応じた多様な米づくりを進めるとともに、園芸導入による複合営農を推進します。

⑤ 所得拡大に向けた販売力の強化

- 市内農業団体等と連携し、地域一体となって園芸作物(野菜、果物、花き)の販売促進・販路開拓に取り組めます。
- 食の拠点性向上に向けて、食に関する新たなビジネスチャンスを創出するほか、米をはじめとした農産物の輸出促進に取り組めます。

新幹線物流を活用した首都圏向け枝豆のプロモーション



施策2 農林水産業を活かしたまちづくり

① 地域資源を活用し、コミュニティの活力を創出

- 所得と雇用機会の確保を図るため、農業者が農産物の加工、直売所や農家レストランの経営等新規事業を立ち上げ、新たな付加価値を生み出す6次産業化や食品関連産業等他分野との連携による農商工連携を進めます。
- 障がい者や農業サポーターをはじめとする多様な人材が活躍できる環境を整え、連携を強化します。
- 田園環境や景観など新潟市の地域資源を良好に保つ地域の取組を進めます。

② 食と農への理解促進とシビックプライドの醸成

- 市民が農業に触れる機会を創出し、都市と農村の交流や相互理解を促進します。
- いくとびあ食花やアグリパークなどを活用し、市民が食と農に触れ、親しみ、学ぶことができる場を提供するなど農業体験を通じて、地域への誇りと愛着を育む取組を進めます。
- 地元農産物の消費拡大につなげるため、地場産食材の活用や地産地消を進めます。

アグリパークにおける農業体験学習



関連する施策

- 障がいのある人の生きづらさや差別の解消、社会参加の推進 … P111
- 学力・体力に自信をもち、世界と共に生きる心豊かな子どもを育む学校教育の推進 … P133
- 地域経済の活性化に資する新たなビジネスの創出支援 … P150
- 新潟の魅力と優れた拠点性を活かした交流人口の拡大 … P162

③ 新潟の農水産物と食文化を全国に発信

- 新潟市の強みである食と花、食文化の魅力を発信し、多くの人々がその魅力に触れられる機会を提供することにより、食と花の販路の拡大および都市と農村の交流を推進し、農林水産業の振興と豊かな市民生活の実現を図ります。

首都圏消費者向けの販促活動



④ 林業・水産業の環境整備

- 森林資源の適切な管理を推進するため、森林経営管理制度の活用を進めるとともに、保安林等の守るべき森林を市民主体で維持していく活動を促進します。
- 水産業の振興に向け、漁港施設の長寿命化や担い手の確保を推進します。

新潟西港での南蛮えびの水揚げ

